

## 2021年度 同窓会総会・懇親会について

2021年度10月に開催しました同窓会総会・懇親会は初の完全オンライン開催となりました。課題はありましたが無事に開催することができました。最後まで指導・支援を頂いた同窓生の皆様に感謝申し上げます。

今回大きくやり方を変えた事によるメリットが多くありました。リモ（リモ）というオンラインコミュニケーションツールを採用し総会・懇親会を開催した事で普段のホテル開催では参加できなかった

遠方からの方も多く、世界中から参加できていました。多くの「ありがとう」を頂き、心から嬉しかった事です。

コロナ禍で大変な面もありましたが、様々な工夫が生まれ同窓会におけるデジタル化が進んだ事は前向きな事であると思います。

最後に、多くの信頼で支えられた事に幹事としての活動をやって良かったと思っております。改めて感謝します。次回当番幹事の平成14年卒「One four A」にも変わらぬご支援のほどよろしく願います。



平成13年卒01会  
代表幹事 大賀崇浩



## 支部レポート

### 関東支部



西南学院高等学校同窓会関東支部は、2010年に有志10数名で結成され今年12年目を迎えました。

東京を中心に関東圏で活躍をされる同窓生の皆様に、気軽なそして有益な交流の場を提供すべく活動しております。

今年は0（ゼロ）から1（イチ）を目標に去年できなかった同窓会総会がオンラインという新しい形で開催されました。従来は福岡と関東支部は別々で同窓会総会が開催されておりましたが、オンラインだったため、関東支部としても福岡の同窓会総会に参加することができました。今までバラバラだったものが融合され、関東支部の同窓会では会えない同級生や先生方にも会うことができ、新しい形での開催に様々な発見がありました。今後リアルでの開催ができるようになっても、福岡の同窓会総会と関東支部の同窓会を同日に行い、お互いの会場をオンラインで繋げて楽しむというのでもいいのではないかと考えます。関東支部としても今年は何かしらの形で開催できるよう進めていく所存です。

海出知穂 平成13年卒

### 関西支部

新型コロナウイルスの見通しが立たない中、関西支部の幹事もオンラインにて開催のみとなっております。関西支部総会の開催困難な状況が2年間続いており、今年度は開催できるような準備を進めております。しかし、昨今の状況により開催できるかは不明です。

昨年7月に関西支部長が交代し、平成4年卒業の香山（こやま）が新支部長となりました。微力ながら福岡本部、関東支部、そして当番学年と連携、協力して活動して参ります。

関西という地域柄、転勤や学生時代のみ数年の期限での在任が多く流動的であります。その中でも世代を超えた同窓生同士の出会いの場として、ビジネスや趣味など新たな交流が期待できます。関西地区に転勤、転居

等でお越しの際はぜひ、関西支部同窓会にご参加をいただけるよう支部幹事一同お待ちしております。

香山忠裕 平成4年卒



## 今に 生きる 学院生活

### 夢は必ず叶う

平成11年卒

森本 太郎



この冬、北京で冬季オリンピックが開催された。昨年の東京オリンピックに続き、多くの感動やドラマを届けてくれた。競技時間は一瞬でも、その為にどれだけ時間を費やし、どれだけ努力を積み重ねてきたか。だからこそ、感動を与えるのだから。

「オリンピックには魔物がいる」と言われる。プレッシャーという魔物だ。世界トップの選手ほど「勝つて当然」という期待が重くのしかかる。自分との闘いだ。

私は2008年に開催された夏の北京オ

リンピックに日本代表として出場し、男子ヨット競技では歴代2番目となる7位入賞を果たした。

出場選手は幼少期に競技を始めた選手が大半。高校から競技を始めた私が出場できたのは本校のヨット部の経験が生きている。当時は北九州から通っていたので、毎朝5時起きで6時前の電車に乗っていた。授業が終われば浜浜のヨットハーバーに移動し、日没まで練習。その後は船の整備やミーティングで帰宅は22時頃。終電で帰る事もあれば、平日にヨットハーバーに泊まり込んだ事もあった。

普通の学校なら安全を考慮して早く帰すのだから、ここまで打ち込ませて下さった学校や顧問の山口尚和先生のお陰で今がある。自由な校風というのは言い換えれば自己責任という事なのだと思う。

どれほど苦労や努力をしたか、その積み重ねが困難を乗り越える原動力になる。高校生活の3年間は、この原動力を培う貴重な場になった。だからこそ私は「夢は必ず叶う」と自信を持って言える。

現在は日本盛（ほんざかり）という日本酒メーカーに勤務しており、コロナウイルスの渦中にある2021年6月に社長に就任した。感染拡大の原因として酒が悪者になり経営環境は厳しさを増しているが、私は思う。必ず今回も乗り越えられる。

ちなみに、オリンピック後の祝勝会で「オリンピックには魔物が二匹いる」と柔道の田村亮子選手に言われた。一匹目はプレッシャー、二匹目はまた出場したいという誘惑だそう。私は見て見ないふりをして

## 保護司27年藍綬褒章



昭和38年卒  
荒木 裕一先輩（元保護司）

荒木裕一さん（77歳）が2021年秋、藍綬褒章を受賞されました。荒木さんは不動産業の傍ら50歳の時に保護司になり、保護観察中の少年を中心に、更生の手助けをしてきました。

荒木さんは西南学院高校1年の時にバスケットボール部でインターハイに出場。その後は部活と勉強の両立は難しいと考え、退部して勉学に励み、早稲田大学政経学部に進学しました。そう聞くと勉強ばかりしていたように思えますが、実際にはここに書けないようなことをして「遊びほうけて」家に帰った後、勉強していたそうです。当時の西南学院高校は大学受験のカリキュラムもなく、先生も受験勉強のことにうるさくなく、勉強したい人は自分で勉強するという自由な学園生活だったということです。

保護司になったことについては高校での経験が影響しているそうです。まず

「人を愛するというキリスト教の基本的な教えが僕の心の中に育った」とおっしゃいます。そして高校での親友との出会い。この方は40歳の時に「見返りを考えずに人の世話をすれば、回り回って自分に返ってくる」と教えてくれたそうです。荒木さんはPTAの会長や同窓会の評議員など誰かに奉仕する役目をたくさん引き受けられました。

保護司は、保護司法に基づき、法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員ですが報酬は無く、実態は民間のボランティアです。犯罪や非行をした人の更生を図るため、生活上の助言や就労の援助などを行います。

荒木さんは対象者1人につき2年間、毎月2回、事務所や自宅で面談してきました。中にはなかなか心が通じない対象者もいたそうですが、最後は無事に荒木さんの手を離れていったと。荒木さんは「高校の時に遊びほうけていた経験が、非行少年と心をつないでくれた」ともおっしゃっていました。

藍綬褒章は、国や地方公共団体から依頼されて行われる公共の事務、保護司や民生委員、児童委員等に尽力した方に贈られるものです。27年の間に約40人の更生に携わってきた荒木さんは今年3月に退任されました。

広報委員会

一般財団法人 西南一粒の麦基金  
常務理事 立石 智昭(昭和57年卒)

設立5周年となる令和3年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、計画していた活動がほとんどできない状態となりました。そんな中、少しでもできる方法はないか考え、無料英語教室「西南一粒の麦 English Academy」を昭和63年卒の伊佐智史さんのご協力のもと、オンラインでの開催を行っています。また、里親家庭で暮らす子ども達への応援では、里親会の集いも開かれなかったことから、昨年に続き、各家庭に寿司を届けることにしました。「食べたい寿司を食べたいだけ」と予め各家庭に注文をとったところ、全部で1,000貫を超える数となりましたが、昭和55年卒の野見山浩さん、平成6年卒の里和直さん、そして前同窓会会長である江副理事長、財団の理事も務めていただいている川崎会長ほか同窓会役員のみなさまの奮闘、ご



協力のもと成し遂げることができました。



財団では、この春に、一つの節目として、設立5周年の記念冊子を作成しました。設立の経緯、思い、そしてこの5年間で取り組んだ活動を振り返り、次に向け、新たな気持ちで更なる活動を行っていきたいと思っています。その活動を支えていただく賛助会員へのご高校同窓会の皆さまからのご入会も増えてきています。有難いことです。引き続き、さらに強力なご支援をお願いいたします。

一般財団法人 西南一粒の麦基金ホームページ

西南一粒の麦基金

検索

<http://www.sw-hitotsubunomugi.jp>



2022年度同窓会総会・懇親会にむけて



One four All 代表幹事  
市丸 健太郎(平成14年卒)  
✉ k-ichimaru@fuji-law.ne.jp

現在、当番幹事ではLINE等を利用して情報共有していますが、まだ連絡がとれていない同級生もいます。まだ繋がっていない同級生で、この記事を読まれた方は、ぜひ当方までご連絡ください。

2022年度同窓会総会において、当番幹事代表を務める市丸健太郎です。

指し、情勢にあわせて柔軟に対応していけるように準備を進めています。

昨年は、01会(前年度当番幹事)の先輩方に多大なご尽力を頂き、コロナ禍の中、完全オンラインという形で素晴らしい同窓会総会を開催して頂きました。今年も情勢が読み難いところはありますが、現地開催を目的

私達の学年の当番幹事名は、「One for all, All for one」という言葉と平成14年卒であることを掛け合わせて「One for All」(ワンフォーオール)と名付けました。一人一人が力をあわせて、同窓生の心をつなげていく、そのような同窓会総会を目指していきたいと思えます。



当番幹事としての活動が本格化する中、先輩や後輩から惜しみないメールや愛情を注いで頂いていること、当番幹事一同、本当に有難く思っています。一生懸命取り組んでいきますので、今後ともお力添えの程、何卒よろしく願っています。

田中1佐のご冥福をお祈りいたします

昭和63年卒(中学昭和60年卒)で航空自衛隊の田中公司1等空佐が帰らぬ人となりました。田中1佐が搭乗したF15戦闘機は1月31日午後、石川県の小松基地を離陸した後墜落しました。田中1佐はブルーインパルス飛行隊長を務めていた2013年の同窓会報に寄稿していました。原稿ではブルーインパルスの活動について「見る人に、夢、驚き、感動、そして笑顔を届けております」と記していました。田中1佐のご冥福を心からお祈りいたします。

